



FSERC News No. 66

編集・発行：京都大学フィールド科学教育研究センター
 住所：〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
 TEL：075-753-6420 FAX：075-753-6451
 URL：https://fserc.kyoto-u.ac.jp

2025年6月

ニュース

島山重篤さんを偲び、 森里海のつながりの再生を誓う

初代センター長 田中 克

“森は海の恋人”は、自然の循環の根幹を理性と感性を見事に融合して言い表した不朽の名言といえるでしょう。この運動を牽引されてきた島山重篤さんが、奇跡の復活を願う多くの人々の願いも叶わず、2025年4月3日に永眠されました。

2003年に森や海に関わる現地教育研究施設を統合して、京都大学にフィールド科学教育研究センターが発足しました。そして「森里海連環学」を生み出すことになりました。その理念は、全ての生き物にとって必須の、悠久の時を経た海と森の間の水の循環の再生を根幹に据え、それに関わる人のあり様を問うものです。

宮城県気仙沼市舞根のカキやホタテガイの養殖漁師である島山さんは、このような水循環が現場に生きる人々にとっては当たり前のこととして、1989年に海を再生するために源流域に木を植える活動を始めていました。それが“森は海の恋人”運動であることを、私



少人数セミナー「森は海の恋人」の故郷に学ぶ」でカキの餌を採集する島山さん（2005年8月）

は京都で開催された世界水フォーラムで知ることになりました。2003年10月に島山さんのもとを訪ね、11月のフィールド研創設記念式典にお招きして基調講演をしていただきました。

“森は海の恋人”運



韓国麗水国際博覧会シンポジウムで講演する島山さん（2012年）

動は、漁師による植林活動として社会的に認識されていますが、その真髄は流域の環境意識の啓発、とりわけ未来を担う子供たちの“心に木を植える”活動です。フィールド研にとっても現場での教育が最も重要と位置づけ、島山さんを「社会連携教授」としてお迎えし、毎年の全学共通教育での講義と気仙沼での「少人数セミナー」を通じて、学生の世界観を変えるほどの多大な貢献をしていただきました。

2011年3月11日に発生した宮城県沖での巨大な地震と津波によって沿岸生態系と沿岸地域社会は壊滅しました。これらの復活の過程を森里海のつながりの視点より克明に記録する「気仙沼舞根湾調査」が、“森は海の恋人”運動と森里海連環学の協働として今なお継続され、新たな森里海連環の深層の解明が進められているのも、島山さんという重鎮の存在のおかげです。今は亡き島山さんの想いや功績を世界に広く普及するためにも、「三陸の叡智」を世界に発信する気持ちを新たにしています。

日本古来の先人の知恵としての「魚付き林」思想を流域の森全体と日本の沿岸汽水域全域の関係にまで普遍化した島山さんの“森は海の恋人”思想は、日本が誇る叡智です。混迷を深めるばかりの世界を、全てのいのちを育む水の循環に裏打ちされた平和な世界に再構築し、続く世代に送り届ける道を開く「森里海連環学」の深化を誓い、その功績に深甚の敬意を表します。

畠山先生と京大フィールド研

センター長 舘野 隆之輔

京都大学フィールド研社会連携教授の畠山重篤先生が2025年4月3日に逝去されました。畠山先生のご逝去を悼み、心より哀悼の意を表します。

畠山先生は2004年度からフィールド研社会連携教授として、時計台対話集会での講演や大学における森里海連環学の講義、気仙沼での野外実習などをご担当いただきました。2003年に発足し、「森里海連環学」を提唱して教育研究に取り組んできたフィールド研にとって、「森は海の恋人」を掲げて実践的な取り組みを行い大活躍されている畠山先生は大きな目標でした。

2023年11月のフィールド研20周年記念式典では、基調講演「森は海の恋人 人の心に木を植える」において、トレードマークの長靴を着用され、フィールド研とともに歩んだ20年を振り返りながら、気仙沼市舞根湾での教育研究活動や将来を担う人材育成について熱く語られました。20年を迎えたフィールド研に厳しくも暖かいメッセージを送っていただき、「森里海連環学」は大学の学問分野にとどめず、森と里と海のつながりがもたらす恵みを、将来世代に引き継ぐための実践的なものにしていかないといけない、という思いを新たにしました。畠山先生には、もっとご指導をいただきました



20周年記念式典の集合写真（右から4番目が畠山先生）

かったのですが、残念ながらそれも叶わなくなってしまいました。畠山先生がしめされた思いを、私たちが次の世代へとつなげていくことで、先生への恩返しができるばと考えています。

畠山先生のごこれまでのご貢献に感謝の意を表しますとともに、安らかな眠りにつかれますよう心よりお祈りいたします。

フィールド研関係者による畠山先生の追悼記事を、ウェブページに掲載しています。



https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/memorial_hatakeyama

社会連携ノート

第9回森里海シンポジウムを開催

森林育成学分野 徳地 直子

2025年3月25日に北部総合教育研究棟にて、第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」を開催しました。午前は106名、午後は114名が参加しました。

午前はプレ企画として、連携する全国の高校15校が里山・里海をテーマに、生物の生態や保全に関する研究や、環境DNAやリモートセンシングを使った研究など、日頃の研究成果の発表を行いました。本学教員が審査員となって、各発表について講評と表彰を行いました。

午後のシンポジウムでは、舘野隆之輔センター長と西原謙策イオン環境財団事務局次長から開会挨拶があった後、紺頼楓さん（農学研究科M2）、横部智浩特任助教、八柳哲特任助教、田中拓弥特任講師の4名か

ら、全国の里山における市民参加型の土壌や植生の調査結果、環境DNA技術を駆使した里海と河川における生物多様性評価、モデル里山・里海形成事業の一環で実施している上賀茂試験地での「里山おーぷんらぼ」の紹介など、「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の最新の研究成果の発表がありました。

最後の質疑応答では、「里山の植生や現状について、高校生が知っておくべきことはありますか？」という質問に対して、「まずは、近くの里山へ行って、里山を管理している方の話を聞いてほしい。また、松枯れやナラ枯れの現状を知ってほしい」と講演者から回答がありました。参加者にご記入いただいたアンケートには「今回の交流を通して、改めて里山里海について考えるきっかけになった。来年もぜひ参加したい」といった感想が寄せられており、本シンポジウムが好評であったことがうかがえました。



高校生の集合写真

新人紹介

基礎海洋生物学分野 講師 河村 真理子

2025年4月に瀬戸臨海実験所に講師として着任しました。私は12年半の間、「黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点」に認定されている同実験所の研究員あるいは特定講師として、教育研究活動を行ってきました。

瀬戸臨海実験所は、2011年度より教育拠点としてのべ1万5千人の学生を受け入れ、共同利用の場として施設を開放し、教育プログラムを提供しています。教



育拠点の主な役割は臨海実習の実施で、中でもフィールド実習に第一義を置いています。

現在知られている32の動物門の約半分は海洋生物であり、陸上や淡水では見られない生物が、実験所周辺の自然海岸では容易に観察できます。そこで、臨海実習において、多様な海岸生物への理解を深めることを目的とし、私は実験所の教員・技術職員・学生とともに「白浜の海岸生物観察ガイド」を作成しました。本書には白浜の海洋環境の解説とともに、海岸に生息する動物・海藻・陸上植物396種が掲載されており、学内外の実習で得た知識を詰め込みました。これまで累計6500部以上を共同利用者に配布し、教育研究に活用しています。実習を重ねるごとに知見は増えていきますので、本書も合わせて増補改訂していく予定です。

最後になりましたが、私の専門は刺胞動物（特にクラゲ）の海洋生態です。最近では、市販の図鑑や動物系統分類学の教科書で、刺胞動物の章の執筆を手掛けています。

(参考)「白浜の海岸生物観察ガイド」

<https://www.seto.kyoto-u.ac.jp/smbll/shirahama-guide/>

受賞の記録

益田玲爾 教授が2025年度日本農学賞および読売農学賞を受賞 (2025年4月5日、東京大学農学部 弥生講堂)「水圏生物の行動の個体発生と群集の環境応答に関する研究」

日本農学賞は、一般社団法人日本農学会の事業として授与される賞で、その前身である「農学賞」は1925年に始まり、広義の農学分野の研究者間における最高の栄誉として今日まで続いています。読売農学賞は、日本農学会の推薦を受け、日本農学賞の受賞者に対し読売新聞社から授与されます。受賞者講演会では、フィールド研舞鶴水産実験所で行ってきた海水魚の飼育実験の成果や、舞鶴湾で20年以上にわたり継続している潜水調査から読み取れる温暖化の影響と対応策等について発表しました。

荒井修亮特任教授が令和6年度日本水産学会功績賞を受賞 (2025年3月27日、東京海洋大学)

日本水産学会功績賞「水圏生物の生態解明に資する硬組

織分析およびバイオリギングの手法開発と一連の研究」

荒井氏は、硬組織分析やバイオリギング手法を活用して、水圏生物の生態解明に長年にわたり取り組み、多くの研究・教育業績を挙げてきました。特に、各種バイオリギングについて手法開発および魚類・無脊椎動物・海産哺乳類など多様な海産生物の生態研究を行い、バイオリギングを用いた研究が沿岸資源の増殖および管理のための一般的な調査手法として定着する道を拓いてきました。また、一連のジュゴンの生態解明を通してヒトとの共存の実現への指針を示しました。さらに、国際共同研究の主導、日本水産学会理事、海洋理工学会会長、日本バイオリギング研究会会長等の学会活動への貢献、地域社会に対する科学の普及・啓発などの社会貢献をしてきました。以上のような顕著な功績は水産学の発展と体系化に大きく貢献しており、日本水産学会功績賞を授与するにふさわしいものと評価されました。

研究者の異動

3月31日 森林生態系部門の池端 建吾教務補佐員が退職。

4月1日 海洋生態系部門基礎海洋生物学分野に河村 真理子講師が着任。教育研究支援室に三田村 啓理室長、徳地 直子副室長、長谷川 尚史副室長が着任。

森林生態系部門に阿部 隆博研究員(非常勤)、里域生態系部門に小幡 光汰特定研究員(学振PD)、海洋生態系部門に藤田 大樹特定研究員(学振PD)が着任。

5月1日 森林生態系部門に阿部 隆博特定研究員が着任。

活動の記録（2025年1～4月）

フィールド科学教育研究センターの改組（4月1日）
教育研究ステーション、教育研究支援室、教育研究支援管理部門を新設しました。

シンポジウム等

フィリピン バタンガス州立大学と部局間学術交流協定を締結（1月9日）
第9回新しい里山里海の勉強会（1月14日、オンライン）
里山の土壌を知るプロジェクト 第1回 中間報告会&交流会（2月7日、オンライン）
第2回 SATOYAMA フォーラム みんなで考えつくるー新しい SATOYAMA（里山）（イオン環境財団主催、2月18日、国連大学ウ・タント国際会議場およびオンライン）
高校生と大学生による「森里海交流会」（3月24日、京都大学旧演習林事務室）
高校生森里海研究ポスター発表会および、第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」（3月25日、京都大学北部総合教育研究棟）
第20回京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都からの挑戦ー地球社会の調和ある共存に向けてー「京都大学が提案する未来」（3月1日、かごしま県民交流センターおよびオンライン）
水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ（4月7日、オンライン）

公開実習

海産無脊椎動物分子系統学実習（2月25日～3月4日、瀬戸臨海実験所）

仔稚魚学実習（3月3～7日、舞鶴水産実験所）
藻類と海浜植物の系統と進化（3月15～19日、瀬戸臨海実験所）

沿岸生態系多様性実習（3月26～31日、瀬戸臨海実験所）

全学共通科目

森里海連環学実習Ⅲ（2月18～20日、芦生研究林）
森里海連環学実習Ⅳ（3月26～31日、瀬戸臨海実験所）
「森里海連環学Ⅰ：森・里・海と人のつながり」「森里海連環学Ⅱ：森林学」（前期）

各施設における主な取り組み

〈上賀茂試験地〉

里山おーぷんらぼ@上賀茂（1月11日、2月15日、3月1、7～9日、4月12日）

〈瀬戸臨海実験所・白浜水族館〉

「白浜水族館からのお年玉」オリジナルカレンダー配布（12月31日～1月3日）

瀬戸海洋生物学セミナー（2月20日、4月23日）

白浜の豊かな海と生き物について学ぼう（2月15日、白浜水族館）

春休み特別イベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」「大水槽えさやり体験」（3月25日～4月7日）

白浜水族館 体験学習（4月26日）

〈森林フィールド教育拠点〉

実習フォローアップ検討会および現地見学会（3月6～7日）

予 定

6月14日（土）白浜水族館 体験学習
6月14日（土）周南市連携講座（周南市役所および徳山試験地）
6月15日（日）「初夏の花観察会」（北海道研究林白糠区）
6月28日（土）畠島ビーチクリーン（瀬戸臨海実験所）

7月23日（水）大浦の魚付き林と海辺の生き物観察会（舞鶴市小橋海岸）
8月19日（火）第11回新しい里山里海の勉強会（オンライン）

2025年度の公開実習予定については、フィールド研ウェブページをご覧ください。https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/opencourse

フィールド散歩 ー冬から春にかけての各施設及びその周辺の様子をご紹介ー



道路横断注意
（北海道研究林白糠区）



こちらの様子をじっと窺うカモシカ
（和歌山研究林）



大勢が参加した里山おーぷんらぼでの下刈作業
（上賀茂試験地）



クロキの花
（徳山試験地）



実験所で営巣するコシアカツバメ
（舞鶴水産実験所）



管クラゲの一種、パレンクラゲ
（瀬戸臨海実験所）

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/zp/nl/news66>

この他にも季節の写真をご覧いただけます。

◆FSERC Newsは、バックナンバーも含めてフィールド研のウェブページに掲載しています。

（編集後記）いつも気仙沼から長靴でこられ、力強い講義をしてくださっていた畠山先生が急逝されました。今年度の講義の調整をさせていただいた際には、ちょっと体調を崩したので今年はお休みするけれど、来年度また、というお話だったのに。講義では森里海のつながりを肌で感じられるお話をしてくださいました。本当に残念です。畠山先生のこれまでのご貢献に感謝の意を表します。千の風になって見守っててください。（NT）